青嶺 seirei

文責　田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

文化学習発表会に向かって、一直線！

次週に迫った文化学習発表に向けて各学年ともに精力的に取り組みを進めており、学校は大変にぎやかです。

今年から平日に変更し二十五日（金）に実施します。子ども達にとってそれぞれの学年で取り組む一度きりの機会です。独自の工夫を凝らし、学年の特色を生かした表現を楽しみにしています。

観に来てくれる家族のため、クラスの仲間のため、そして自分自身のために今この時を全力で取り組んで、素晴らしい劇を創り上げてください。悔いを残さないように全力で楽しんでください。災害などで大変な同級生もいる中で劇ができる喜びを感じてほしいと思います。

みんな頑張れ～！！

突発性難聴のこと

皆さんご存じのように、私の左耳はほとんど聞こえません。それは突発性難聴という病気になったからです。ある瞬間から突然片方の耳の聴力が失われる原因不明の病気です。効果的な治療法や薬はありません。完全に聞こえないのではなく、特定の音域が聞きづらくなって耳鳴りにも悩まされます。

ある日、朝起きたら左耳に違和感があり、同僚の勧めですぐに耳鼻科を受診したところ、「聞こえるようになる確率は三分の一、このまま聞こえない確率は三分の一」と言われました。驚いて残りの三分の一は？と尋ねたら「よりひどくなる確率です」と医者は答えました。ベッドが空くのを待って入院し、酸素加圧治療、ステロイド内耳注射と考えうる全ての対応をしましたが、再び聴力が戻ってくることはありませんでした。

病気になったすぐのころは現実を受け入れきれず、目が覚めたら聞こえるようになっているのではないか、と願いながら眠りにつき、起きたらまた現実と向き合わなければならない辛い毎日でした。

人生で初めての入院期間中に期待と希望を捨てきれずに治療を受けていました。退院の日に次にいつ来たらいいのかを尋ねたら「調子が悪くなったら来てください」と…「もう、やるべきことはやった。次のことを考えよう」と思わざるをえませんでした。

左耳が聞こえないとどんなことが変わるのでしょうか？二人以上の人が話しているとその内容はまったく聞き取れません。ドアの音など特定の音が大きく響いて聞こえるのに、他の音は全く聞き取れません。音楽は平板に聞こえますし、演奏を聞きながら歌うのは伴奏が全く聞き取れないので歌えません。

聞き取れないからなのか言葉を発する時に活舌（かつぜつ）が悪くなり、ろれつが回りません。話すこと、聞くことの両方がとても不自由になりました。

運転にも影響が出たので、公共の交通機関が発達した場所へ引っ越しました。またずっと乗り続けていたバイクを手放しました。バイクの運転には車以上に音の情報が大きかったのです。現在は、この生活にもほんの少し慣れましたが思ったより手こずっています。

これまで出来ていたことができない焦りや苛立ち、喪失感を埋めることは容易ではありません。音楽を聴くことや生徒と合唱を練習することは大好きだったので、本当につらく感じます。バイクを降りたこともきつい決断でした。「聞こえない」状況を本当の意味で受け止めて自分の中で消化するにはまだ時間が必要なのでしょう。

聞こえないことの辛さもありますが、もっともきついことは何だと思いますか？それは、「大丈夫だよ、治るよ」という言葉でした。もちろん言っている本人には悪気は一切ありません。きっと知り合いなどに難聴が改善されたという方がいらっしゃるのでしょう。

私は診断が出た後でインターネットや書籍で治療法を隅から隅まで探しました。しかし、ごく軽い症状を除き「本当に治った人」はいなかったのです。もし、そんな治療法や薬があったなら、歌手ならいくらお金がかかっても治療するでしょう。しかし堂本剛さんや、スガシカオさんはいまだに聞こえないままです。治療法を探せば探すほど「受け入れるしかない」と思うしかない状況で「大丈夫だよ、治るよ」という言葉はあまりにも辛い言葉でした。

人は見た目で分かりやすいことには「多様性」や「個性」という名のもとに「共感」を求めますが、「見えない」ものに関してはどうでしょう？

私は「聞こえない」ことに理解を示せ、といっているわけではありません。見た目では分からないのだから、自分から状況を知らせて「理解してもらう」ようにしています。また、心の中まで配慮してくれとも望んでいません。ですが、当事者以外はわかりえない思いがあることを知っておいてほしいと思います。安易に励ましたり、共感しようとしたりはできないと思うのです。

「治るよ」の言葉には「心配ありがとう、なかなか難しいんだよね」とかわすようにしていますし、将来、移植治療を受けたいから研究者になって実用化させてくれ、生徒にお願いしたりします。「わかってもらえない」といじけるより、自分が生きやすくなるように「自分から」発信し行動を変えるべきだと思うのです。

この病気を通して、様々な変化と気づきがありました。自分がそうならなければこんなに真剣に考えることはなかったでしょう。ですから、今、社会に存在するたくさんの問題にもできるだけ自然体で中立の立場で関わり、新しい情報を柔軟に取り入れ、そして考えを更新していきたいと思います。突発性難聴になったことで得たこと、考えたことを皆さんに伝え、みんながしなやかに、思いやりをもって人生を送ってほしいという願いを発信し続けます。